

(株)ダイゾーの事業基盤強化計画(抜粋)

企業概要

- 昭和11年に「株式会社大阪造船所」として創業。貨物船を400隻ほど建造。
- 昭和48年に長崎県に新たに「株式会社大島造船所」を設立し、大型の船舶の建造事業を同社に移管。移管後は、他事業を吸収しつつ、社名を「株式会社ダイゾー」に変更。平成22年からはタグボートの建造に特化し船舶建造を再開。
- 令和6年5月までに40隻のタグボートを引き渡し、今後のカーボンニュートラルに対応すべく、次世代燃料タグボートの開発・建造の準備を進めている。

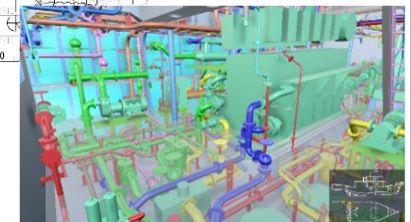
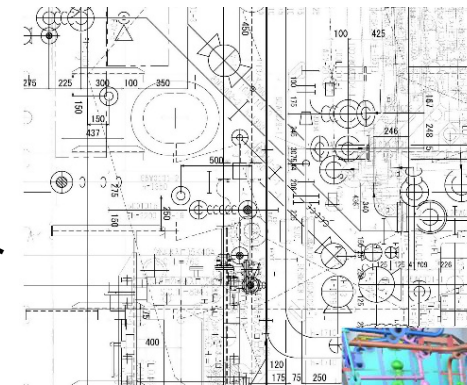


計画の概要

- 今後のカーボンニュートラルの流れに対応すべく、次世代燃料タグボートの開発・建造を行う。
- 具体的には、これまで重油とエンジンにより推進力を得ていたところ、バッテリーやモーターに置き換えることで、燃費性能の高いタグボートを建造する。
- この新造船では配管や電線の系統が大きく入れ替わるため、3D-CAD等を新たに活用することで効率的な設計や建造に取り組む。

<計画実施期間> 2024年7月～2028年7月

<実施場所> (株)ダイゾー 本社工場(大阪府大阪市)



3D-CAD図への変更(既存タグボート)

小池造船海運(株)の事業基盤強化計画(抜粋)

企業概要

- 昭和35年、小型鋼船の建造及び修理を生業として創業。
- 現在は、新造船の建造を中心に実施。本社工場と第二工場の2つの拠点をもち、最大2500総トンの船舶を建造可能。
- 年間で約7隻の船舶を建造し、特に、ガット船(荷役機能付貨物船)については、国内建造件数の40%を誇り、国内トップシェアを誇る。



計画の概要

- これまではクレーンの荷重能力が不足しており、吊り上げることができる船舶のブロックが小さかったため、船台における組立作業が長期化していた。そのため年間の建造量は頭打ちとなり、失注する原因にもなっていた。
- そこで、本社工場に、吊り上げ荷重能力を従来の30tから90tまで増強させた大型クレーンを新たに設置することで、大型のブロックを用いた効率的な組立を行う。
- あわせて本社工場のレイアウトを変更することにより、ブロックの製造工程の効率化を図り、年間約9隻の船舶の建造を目指す。



新工場レイアウト図

<計画実施期間> 2024年7月～2029年3月

<実施場所> 小池造船海運(株) 本社工場(広島県豊田郡大崎上島町)

伯方造船(株)の事業基盤強化計画(抜粋)

企業概要

- 昭和33年の創業以来、内航船、外航船問わず多種多様な船舶を建造。
- 「船主の心に寄り添う」「地域社会、地場産業に貢献する」の方針のもと、顧客の細かいニーズに応える船造りが評価されている。
- 2050年カーボンニュートラルの目標を念頭に、主力である油送船やケミカルタンカーの省エネ化・高品質化に取り組むこととしている。



計画の概要

- 999総トン型内航タンカーについて、従来の省エネ船型の船型改良(2船型)を行う。
- また、既に内航船省エネルギー格付制度の4つ星を獲得している、5,000KL~6,000KL型内航タンカーについて、5つ星の獲得を目指すべく更なる船型改良を行う。
- 具体的には、CFD計算や水槽試験により全体の船型改良を実施するほか、ゲートラダー等の省エネ付加物の導入を行うことで、燃費性能の10%以上の改善を図る。

<計画実施期間> 2024年7月~2028年7月

<実施場所> 伯方造船(株) 本社工場(愛媛県今治市伯方町)



油送船兼ケミカルタンカー



ゲートラダーシステム®